

環境コミュニケーション

環境会計は、2002年度から環境省の「環境会計ガイドブック」に準拠して、効果に関しても集計しました。地域社会の環境改善に貢献するために、各事業所でのボランティア活動などに取り組みました。生産拠点別の環境負荷データを掲載するなど、川重グループとしての環境報告書の充実に取り組みました。

環境会計

当社の環境会計は、2001年度までは「環境対策設備投資」と「環境保全コスト」に関する、投入コストだけを集計したものでしたが、2002年度からは、環境省の「環境会計ガイドブック」に準拠し、「環境保全コスト」および「環境保全効果」として「物量効果」と「貨幣効果」に関しても集計しました。

このように「環境保全コスト」と「物量効果」および「貨幣効果」を目に見える形で把握することによって、環境保全における費用対効果を分析し、適切な経営判断を行い、効率的かつ効果的な環境保全への投資を推進します。

- 集計範囲:川崎重工業 本体および川崎造船、カワサキプレジジョンマシナリの国内事業所
- 対象期間:2002年4月1日~2003年3月31日

[環境保全コスト]

単位:千円

分類	主な取り組みの内容	投資額	費用額※	
(1)生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)		831,816	2,733,524	
内訳	①公害防止コスト	・法規遵守 ・公害防止設備・同運転・保全	539,389	920,464
	②地球環境保全コスト	・省エネ活動 ・省エネ設備・同運転・保全 ・コージェネレーション設備・同運転・保全	94,165	646,110
	③資源循環コスト	・廃棄物削減・適正処理 ・廃棄物分別・リサイクル処理 ・ゼロエミッション活動・上記関連設備	198,262	1,166,950
(2)生産サービス活動に伴って上流または下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト(上・下流コスト)	・グリーン購入・製品アセスメント実施 ・環境に配慮した製品の改良	255,350	2,693,260	
(3)管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)	・環境教育実施・研修 ・EMSの整備・運用 ・環境データの測定・監視	0	469,170	
(4)研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)	・環境配慮型・環境保全型製品の研究開発	27,790	3,208,820	
(5)社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)	・周辺美化 ・工場緑化 ・環境団体活動参加・環境報告書発行	17,886	202,298	
(6)環境損傷に対するコスト(環境損傷コスト)	・地下水汚染浄化 ・汚染負荷量賦課金	91,192	40,252	
合計		1,224,034	9,347,324	

※減価償却費を含む

単位:千円

項目	金額
当該期間の投資額の総額	24,538,209
当該期間の研究開発費の総額	14,370,765

[環境保全効果]

環境負荷指標	総量	増減	備考
温室効果ガス排出量	t-CO ₂ 272,432	8,178	削減 P19参照
エネルギー使用量	TJ 5,839	151	増加 P19参照
水使用量	千m ³ 6,993	121	増加 P19参照
廃棄物排出量	t 66,960	1,132	削減 P20参照
廃棄物リサイクル率	% 84.6	2.4	向上 P20参照
SO _x 排出量	kg 22,588	15,496	削減 P24参照
NO _x 排出量	kg 160,571	17,725	削減 P24参照
ばいじん排出量	kg 4,692	521	削減 P24参照

[環境保全対策に伴う経済効果]

単位:千円

効果の内容	金額
リサイクルにより得られた収入額	234,932
省エネルギーによる費用削減	256,421
廃棄物処理費用の削減	2,641
省資源化による材料費削減	138,313
合計	632,307

ボランティア・地域貢献

環境憲章の行動指針に社会貢献活動を掲げ、各事業所で近隣の道路、公園、河川、海岸などの清掃や草刈り、福祉施設の修理、環境NPOの活動協力等に取り組んでいます。



駅前清掃（岐阜工場）



道路清掃（明石工場）



兵庫県「やしらの森公園」の整備



道路清掃（兵庫工場）



海岸清掃
（神戸工場）



道路清掃（坂出工場）

■アメリカでの社会貢献活動

川崎財団では、アメリカにおいて、教育・科学、芸術、医療、福祉など多岐にわたる分野で、寄付をはじめとした募金活動やボランティア活動を行っています。

川崎財団は、在米関係会社が個別に行う社会貢献活動とは別に、全米における活動を効率的に行うことを目的として1992年に設立されたものです。



同時多発テロ被害者救済のための川崎財団の活動に対する感謝状基金にも義援金を拠出

■国際社会・地域社会への貢献

開発途上国の人材育成や技術協力を支援する「国際協力事業団（JICA）」より委託を受けて毎年研修生を受け入れ、海外との技術交流を進めています。

また、各事業所では、周辺学校からの工場見学の受け入れや、グラウンド等の施設の開放を通じて、地域社会に役立っています。



海外からの研修生受け入れ
（明石工場）



工場見学受け入れ（岐阜工場）

情報開示

社員への環境意識の啓発活動として発信している「全社環境ニュース」は、年4回発行しています。また、社員の家族にも環境問題について理解を深めてもらうため、季刊の社内誌「かわさき」の中に環境コーナー「エコマインド」を連載しています。

対外的には、当社の環境経営の考え方や諸活動について、さまざまな立場の方にご理解をいただくために、環境報告書やホームページで環境情報を開示してコミュニケーションを図っており、読者からいただいたご意見等を環境経営活動に反映していきます。



全社環境ニュース



社内誌「かわさき」



環境報告書